



子供たちに贈るのりを手に、笑顔をみせる金萬智男さん(左)と実形博行さん

「海の幸」を「山の民」に

「海から山への贈り物」で、健康回復を一。アジアの山岳民族の子供たちや「ストリートチルドレン」の栄養障害の解消に、千葉・木更津でノリの養殖を営む漁師たちが、一役買って出た。神奈川県(NPO)法人(特定非営利活動法人)を通じ、生産したのりやワカメを現地に贈る活動を展開。この輪を全国に広げたいという。(佐藤修)

「タイやミャンマーに住む山岳民族や路上生活を余儀なくされた『ストリートチルドレン』と呼ばれる保護施設の子供たちが、栄養素の一つであるヨードの摂取不足で、深刻な健康障害を起こしている」

アサリ漁などでも知られる木更津市の金田海岸でノリの養殖を営む金萬(きんまん)智男さん(47)、実形(じつかた)博行さん(47)らは今年3月、アジアの子供たちの教育支援などを行っている神奈川県(NPO)法人「地球市民ACTかながわ」の代表、近田真知子さん(56)らとの交流会で、

こんな話を聞いた。

そこで、金萬さんらは「自分たちが生産しているのりを子供たちに贈り、ヨード不足を解消してもらえばいいのではないか」と提案。

製造過程で傷が付いたり、小さな穴が開いたりした市場に出せない規格外の「跳ね出し」と呼ばれるのり1000枚と生ワカメ約30kgを無償提供した。

さらに、2000枚ののりを50枚1000円で、地球市民ACTかながわが開いたイベントなどで販売した。

1000円のうち300円が、現地の子供たちの教育支援

に充てられる。

近田さんら日本人スタッフ10人は、今年5、6、8月上旬に続き、8月21日～9月1日まで、タイのコンケン県やチェンマイ県の山岳民族の村などを訪問。

両親のエイズや麻薬、家庭内暴力などが原因で、路上生活を余儀なくされた「ストリートチルドレン」の保護施設を訪れ、金萬さんらから贈られたのりやワカメなどの食料約70kgを配った。

保護施設では、25人の子供たちにキュウリや卵、ソーセージなどを巻いたのり巻き寿司の料理教室も開き、それぞれの食材に含まれる栄養が、身体や健康にどのように役立つかを学んでもらった。

地球市民ACTかながわの近田代表は「知らない国

ののり巻き寿司という料理を作ることで、子供たちも興味津々。空腹を満たしながら、食材の栄養の重要さも学んでもらえ、ひじょうに有意義でした」という。

タイやミャンマーの貧しい農村部や山岳部に住む子供たちは、海産物を食べる機会が乏しく、甲状腺ホルモンの原料であるヨードの摂取不足から、甲状腺疾患や精神障害、脱毛など深刻な健康障害を引き起こしている。

「約5年間、子供たちに乾燥ワカメを食べさせたところ、子供の甲状腺疾患が100%近く解消した」との報告もあるという。

金萬さんらは、木更津の海岸線10km以上に広がる国内最大級の砂質の自然干潟「盤洲(ばんず)干潟」の自然保護などを考えるNPO法人「盤洲里海の会」を主宰する。



タイ、チェンマイ県の保護施設で、のり巻きを手に大喜びする「ストリートチルドレン」だった子供たち

木更津の漁師 東南アの子供救済に一役

子供たちのための自然教室を開いたり、孟宗竹を使用した魚礁「逆さ竹林」で生態系の再生を試みたりもしている。

「木更津市の漁師さんたちが、自然体で自然保護活動を行っていることをネットで知りました。『海から山への贈り物』と題したこの活動は、本当にありがたい」(かながわの近田代表)

のりやワカメを贈る活動は始まったばかりだが、金萬さんは「来年以降も、漁師仲間やNPOのメンバーと力を合わせ、子供たちのためにのりやワカメを贈り続けたい。この輪を全国の漁師や市民に広げたい」と笑顔をみせた。

「海から山への贈り物」活動への問い合わせは、地球市民ACTかながわのHP、<http://www.tpa.k.org> ☎045・622・9661。盤洲里海の会のHPは<http://www.satoumi.net/>